

NPO 法人 共に歩む市民の会

共に歩む市民の会広報委員会

会 報

通巻 第14号

2005年8月15日発行

☎241-0022

横浜市旭区鶴ヶ峰2-1-16

☎045-953-6727

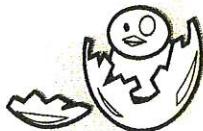


「ボランティア雑感」

堀口 和実

56歳になるまで、ボランティアとは、全く別の世界にいた中年の自分が、共に歩む市民の会のボランティア活動を始めて約半年、まだまだよちよち歩きで先輩に教えを請いながら、手探りで研修中の身でありながら、突然、巻頭言に登場してしまうこのあつかましさは、一体何処からやってきているのだろうか？ 1960年代のベ平連運動で有名な作家小田実の「何でも見てやろう」世代の落とし子が一様にもつ好奇心によるものか、会社人間として、誰もがこれ以上悪い環境がないという場所で仕事をしてきた（いや、やらされてきた？）中で、生来持っていた控えめで、おとなしい性格では、そこで生きていけず、生き延びる為に、やむなく身につけるを得なかった怖いもの無しの、「どうにかなるさ」の開き直り精神によるものか、よくわからない。いずれにせよ、登場してしまったからには、今更、退散するのは男の汚券にかかるので、なんとかやり遂げなければならない。読者諸兄には申し訳ありませんが、暫しお付き合いください。

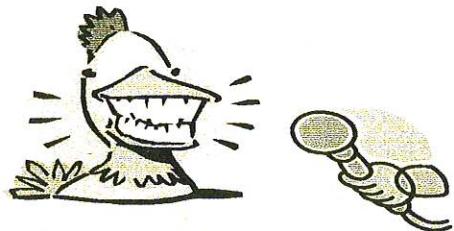
ボランティアとは, voluntas(自由な意思)、voluntarius(自らすすんでする)などのラテン語から派生している言葉で、「誰もが一人の市民として、地域の住民として、共に生き、支え合う、住民参加の一形態」として位置づけられているようです。阪神・淡路大震災では、延べ130万人といわれたボランティアが被災地を訪れ、活動に参加したことをきっかけに、一躍、国民の間に広まったことは良く知られるところです。近年、精神保健及び精神障害福祉の領域（以下「精神保健福祉」とする）で、地域住民によるボランティア活動が、広がりつつあることは確かですが、しかし、その受け皿は十分ではなく、精神障害者はさまざまな誤解、偏見、差別のなかで地域生活をすることを余儀なくされています。精神保健福祉ボランティアには、精神障害に関する深い理解、関心を高め、特に差別、偏見、無理解に関する人権侵害に関心を高めていくことが求められています。私が参加している共に歩む市民の会の「語らい電話」ボランティアの先輩方々の活動振りを見ていると、それぞれご自身の人生経験に裏打ちされた専門性を發揮され、とても勉強になります。それは、コーラーさんからどなられ、怒られながらも、傾聴に徹し、相手の気分が落ち着くのをじっと待ち続ける忍耐、時には、逆に自分が落ち込んでしまい暗い気分で家路につくこともあるそうです。しかし、その試練を乗り越えることで、一人前の精神保健福祉ボランティアとして独り立ちできるのではないかと思います。



自分は、まだ半人前の精神保健福祉ボランティアですが、こころの病を抱えている人々と触れ合うなかで、彼らからエネルギーを得ることや学ぶことがあり、自分自身が癒されているような気がします。そんな経験を踏まえ、自分と同世代の団塊の仲間達にこんな問いかけをしていきたい。

「精神保健福祉ボランティアに参加してみませんか？ 長い会社生活に疲れきった気持ちを癒し、地域社会で自分自身の新しい旅を発見してみませんか？」

ランチサービス インタビュー



松元 紀子 森 輝幸

7月初旬、広報担当がほっとぽっとにお邪魔して、ランチサービスに参加してきました。
“キャベツと玉子の炒め物（さやえんどうとウインナー入り）”がうまく仕上がり、皆さん大満足。
今回昼食づくりに参加された高橋さんと岩澤さんにお話をうかがいました。

松元「高橋さん、今日の昼食づくりはいかがでしたか？」

高橋「調子が良かったので、買い物が楽で、メニューも難しくなくて良かったです」

松元「今までで一番何がおいしかったですか？」

高橋「丼物がおいしかったです。だいたいいつも300円以下で食べれますよ」

松元「岩澤さん。今日はおかずを買ってきていたけど、お手伝いしてくれてありがとう」

※おかずの持ち込みもOKです。

岩澤「今日は、川田さんの嫌いな唐揚げを買ってきました（笑い）。いつもは買い物にもよく行きます。
なかなか断れないんですよ、みんなが優しくしてくれるから、それで」

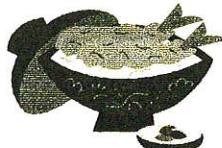
森「みんなでどう分担しているんですか？」

岩澤「みんなで相談してメニューを決めて、買い物や調理の分担します」

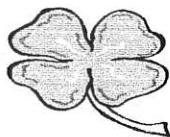
森「ランチサービスが始まってどんな感想をもっていますか？」

岩澤「楽しいです。みんなと作れるところが！」

松元「高橋さん、岩澤さん、ありがとうございました」



ほっとぽっとでは、和やかな雰囲気で
ランチサービスが行われていました。
お値段も安いので、ぜひ会員の皆さんも一度
いらしてみてはいかがでしょうか。



皆様のご厚意に感謝！！

・・・ 大切に使わせていただきます

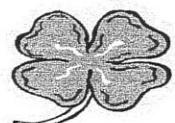
◇ご寄付ありがとうございます (順不同 敬称は略させていただきます)

- 1月：社会福祉法人 土と愛、高野歳一、沖柳吉彦（家電品・家具等）
2月：あけぼの会、横浜市精神障害者家族会連合会、たちばな会、あじさいの会、港南区生活支援センター、保土ヶ谷区生活支援センター、訪問看護ステーションかわい、横溝光恵、ヴィラあさひの丘、神奈川病院、河合 美、小山静子、富田英夫、望月真奈美、内田由里子、福島国雄、多和田公子、渡部スミ子、葦の会、社会福祉法人 恵友会、木々の会、手作りの会、吉田和子、深井浩治、田山裕文、吉田義正、伊達和子、松元秀弥、福原一彦、北市安子、宇田達夫、城所二郎（花束）、小宮 勇（観葉植物）、桜小路富士丸・ヒメジモモヤマ（看板）、神奈川区生活支援センター（冷蔵庫等）
3月：社会福祉法人 土と愛、松元康太、横山志津、伊藤享子、田中良子、我妻みどり、沖柳吉彦（家電品等）
4月：宮入ミヨ子、中里弥生、武田浩司、小池 清、村上厚子、小澤清子
5月：志沢希久子
6月：島津いずみ、神奈川病院職員一同、神奈川第二病院職員一同、松迫敦子、伊達和子、村岡福蔵、鹿志村

◇ご入会ありがとうございます 6月末現在 (順不同 敬称は略させていただきます)

- 正会員：田山裕文、布留川謙司、平間チヨミ、井上建夫、曾我美紀、松迫敦子、清水英利、柳村三枝、井上恭子、河合 美、原田恵子、小澤清子、小栗由美、あけぼの会、松元紀子、渡部スミ子、武田浩司、多和田公子、北市安子、志沢希久子、望月真奈美、富田英夫、青柳奈美、伊達和子、村木雄一、吉田和子、内田由里子、紺野義彦、高橋成忠、福島国雄、深井浩治、今野利絵、森 輝幸、酒井ルリ子、横溝光恵、佐伯 彰、河口友美、高木文穂、田中梨奈、池 智子、時政松枝、鈴木 伸
賛助会員：佐藤志律枝、重久朝子、島津節子、長戸誼夫、武井豊水、藤崎広明、宮本英彦、斎藤弘子、鈴木正枝、岩崎 仁、高橋太郎、益 恵美子、堀口和美、宮入ミヤ子、滝田和枝、宮地博美、大沢知子、高橋福男、刑部登喜子、鈴木小春、前野幸子、綿貫 薫、倉田初枝、我妻みどり
団体会員：特定非営利活動法人 横浜マック、誠心会神奈川第二病院、林間メンタルクリニック、葦の会、芳生会保土ヶ谷病院、木々の会

*万一、抜け落ちや間違いがありましたら事務局までお知らせ下さるようお願いいたします。



「共に歩む市民の会」総会報告

旭福祉保健センター 酒井

6月11日にはれっと旭にて任意団体「共に歩む市民の会」の解散総会とNPO法人「共に歩む市民の会」総会が行われました。議長に福島さん、書記には梅本さん（ほっとぽっと職員）と酒井（旭福祉保健センター）が選出され、議事は滞りなく承認されました。

総会では事務局長・施設長の川田さんより2005年度事業計画についての説明がなされ、今後の「ほっとぽっと」をはじめとする会活動の課題と取り組み事項が提案されました。「ほっとぽっと」では、すでに行われているフリースペースの提供、ランチや夕食会の開催、語らい電話、ピアサポート活動に加え、新たに嘱託医による専門相談や入浴・洗濯サービスの提供も開始となりました。また、従来の語らいボランティアの育成に加え、当事者活動に直接かかわるボランティアの育成、あけぼの会と共同で行う家族支援等、当事者活動への支援だけでなく、当事者を取り囲む人々へのサポートも充実させていく予定です。

そして大きな試みとしては、ニーズが多いにもかかわらずなかなか実現させることが困難であった夜間電話支援、長期入院者が地域に戻るきっかけ作りとしての地域生活体験支援、旭福祉保健センター職員等とチームを組んでの訪問支援があります。今後、検討・試行していく、当事者がいかにして地域でよりよい生活ができるかを調査研究していくとのことです。なお、「ほっとぽっと」を含めた会の活動経費は、横浜市及び旭区からの補助金と皆様の会費・寄付等によって支えられているとの説明がありました。

また、今年は当事者への情報発信をするとともに、地域への啓発・交流を図ることを目的とした地域住民を巻き込んだお祭りも検討されており、今後「ほっとぽっと」を通してつながりが深まり、当事者が暮らしやすい地域作りができたらいいと思います。

第3部 研修会について

ほっとぽっと 高野

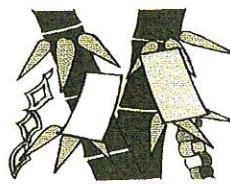
総会終了後、ティータイムをはさんで午後3時から研修会が開催されました。会の総会で、研修会が持たれるのは初めて。どんなテーマにするか等、検討もあまり出来ませんでしたが、NPO法人となって、今までの市民団体と何が違うの、今までは何でも話し合いで運営してきた「会」は、どうなっていくのと言った不安の声が、活動を支えてきた仲間達からもきかれ、NPO法人として歩き始めた「会」の活動について一緒に考えられる機会になればと、福祉の視点で市民活動を長い間続けてこられた松本和子さん（よこはま市民セクター副代表）をお呼びして、お話を聞くことにしました。また、松本さんを紹介してくれた横浜市職員の中川久美子さんにも参加していただきました。

松本さんは、戸塚区のドリームハイツを中心として、自らの生活の課題を地域の人たちと一緒に考え活動してきた30年の経過と、NPO法人となっての変化、また、行政から事業を委託されての変化など具体的に話されました。例えば①法人化を進めるプロセスに意義があること②社会的に認識が得られる（資金調達、対行政）③支える側と支えられる側の区別がはっきりしてくる（誰が雇い主なの）などなど

時間が短かったこと、司会者の準備不足で多くの共通の課題が出されたのに意見交換を充分にすることが出来ませんでした。ぜひ、時間をかけて、課題の整理、今後「市民の会」は、何を目指していくのか等の検討が出来ると嬉しいと感じました。

ほっとほっとのようす

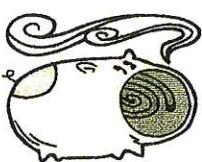
&七夕のゆめ



- ▼ 開所して約5ヶ月。一時ほどではありませんが、最近も引き続きグループや個人での見学と問い合わせをかなりいただいている。
- ▼ 利用者は徐々に増えています。6月は開所日数が22日で来所者637人（当事者491、家族27、ボラ・関係者等119）。一日平均29人です。相談支援は電話が10件、面接5件、訪問・同行1件強（いずれも一日平均）。語らい電話が13回65件、昼食支援17回189人、夕食会4回89人でした。
- ▼ 利用者の声から生まれたコンサートやグループ活動、「ぴあ活動も始まっています。
- ▼ いま一番ホットな話題は、利用者（当事者）の窓口業務への参加です。これまで「利用者」だった人たちが交代で受付窓口に座ります。いま、研修を受けたりルールを話し合って、7月下旬頃から試みを始めます。「なかまが迎える」あったかい雰囲気の場になることを期待しています。
応援してくださるボランティア募集中。
- ▼ これから始めてみようと検討中なのが…「電話を利用した夜間の支援」「体験と休息のための宿泊」「どこにもつながっていない人たち（など）への訪問」。どんな支えやつながりがあるとよいか？試みながらモデルづくりができればと考えています。これもさまざまな人たち（ピア、ボランティア、スタッフ）と共同のしごとです。

こんな声が
あちこちから
聞こえてくるといいな…

ホヘフヒハ節(ぶし)
ホッ とできる場所があったヨ・・・
へー こんな仲間がいたんだ・・・
フーッ おもいきいため息をつく・・・
ヒエ~ つらくて大変…相談してみよう
ハッ わたしここで生きていけそうだ！！



編集後記

- ◆ 食材の買い物などさせていただき、メニューができあがった時の嬉しさ！“愛情”ビタミン入りの昼食にありつけ、楽しい取材でした。（^・^）松元
- ◇ 今回もたくさんの方に、原稿を書いていただき感謝しています。見開き一枚ですが、皆さんに、深い衝撃（Deep Impact）を感じてもらえたなら幸いです。（^◇^）森
- 自然派の私は、この時期暑くてご飯を作るのが面倒！！こんな時はほっとぼっとの夕食会で安くて美味しいご飯を食べたいなー と思う今日この頃です。（^・^）高木
- 皆さんもうほっとぼっとに足を運ばれましたか？沢山の方々にほっとぼっとを利用してもらえて嬉しい限りです。（^o^）V松迫